

— 令和2年度 動物実験に関する情報(医学研究科)—

1. 令和2年度 実験動物の種類と飼養保管数

実験動物種	延べ飼養数(A)頭	飼養数(A/365日)頭
マウス	4,751,266	13,017
ラット	322,478	883
ウサギ	17,398	47
ハムスター	23,999	65
スナネズミ	0	0
モルモット	2,494	6
イヌ	1,490	4
鳥類	639	1
ブタ	365	1

2. 令和2年度 承認された動物実験計画数

動物実験計画承認申請書の学長承認 **[34件]**

3. 令和2年度 教育訓練の受講者数

動物実験実施者登録講習会(e-learning 講習実施)受講登録者数 **[101名]**

4. 実験動物飼養保管施設数(学長承認)

動物実験施設本館、動物実験施設南館、RI 実験施設 **[計3ヶ所]**

5. 飼養保管施設以外の動物実験室数(学長承認)

動物実験室 **[計29室]**

6. 相互検証プログラム

大阪市立大学は平成 24 年度、国立大学法人動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会による「動物実験に関する相互検証プログラム」の検証を実施。

令和 2 年度 阿倍野地区動物実験委員会・委員構成

構成員：動物実験、実験動物に関し優れた識見・学識経験を有し、長年動物実験に関する審査・教育等に関わってきた医学研究科の教員 13 名で構成されており、内訳は以下の通りです。

阿倍野地区動物実験委員会(医学研究科)			
役割	職名(所属)	氏名	関連役割等
動物実験委員会委員長	教授(分子病理学)	鰐淵 英機	動物実験施設長・管理者
同 委員	教授(細胞機能制御学)	広常 真治	
同 委員	教授(器官構築形態学)	中島 裕司	
同 委員	教授(循環器内科学)	葎山 稔	
同 委員	教授(病態生理学)	大谷 直子	
同 委員	教授(機能細胞形態学)	池田 一雄	
同 委員	教授(分子病態薬理学)	富田 修平	
同 委員	准教授(ウイルス学)	綾田 稔	動物実験施設・獣医師
同 委員	准教授(女性生涯医学)	橘 大介	
同 委員	准教授(実験動物学)	吉田 佳世	
同 委員	准教授(環境リスク評価学)	魏 民	
同 委員	講師(整形外科学)	橋本 祐介	
同 委員	病院講師(消化器内科学)	東森 啓	

動物実験に関する自己点検・評価報告書

大阪市立大学大学院医学研究科

動物実験施設

— 令和 2 年度分 —

2021 年 8 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
- 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程を定めていない。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」(以下「飼養保管基準」という。)と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」(以下「基本指針」という。)に則って、「大阪市立大学動物実験管理規程」、「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」が定められている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
- 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会を設置していない。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」「委員会名簿」「動物実験委員会組織図」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

動物実験委員会は、施設管理、実験計画審査、教育、施設審査の各小委員会を置き、基本指針の内容を踏まえてそれぞれの役割を十分果たしている。毎年の委員会・連絡会議の開催と日頃実施される実験計画審査委員会など、動物実験委員会事務局が動物実験施設内にあり、活発に運営されている。令和 2 年度は、持ち回りにて動物実験委員会を実施、新型コロナウイルス感染症の緊急対応の通知、新規マウスラックの導入等、意見を共有した。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」 「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」

「動物実験計画承認申請書等の様式集」 「動物実験計画承認申請書の審査結果報告書」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

実験立案から結果報告に至るまで上記資料に細かく定められており、それに沿って実施されている。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症により必要最小限で実施されていた。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」 「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」

「大阪市立大学(組換え DNA)実験安全管理規程」

「大阪市立大学病原体等安全管理要綱」 「大阪市立大学病原体等安全管理区域運営規則」

「大阪市立大学毒物及び劇物の適正な保管管理の徹底について」 「BSL2 実験室安全操作要領」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

安全管理については管理規程や内規、手引き等に詳細に定められており、また、学内の DNA 実験安全委員会及びバイオセーフティー委員会等に従って動物実験が実施されている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果

基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。

2021 年度 自己点検・評価報告書

様式 1 - 2

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「動物実験施設(本館・南館)飼養保管施設設置承認申請書・通知」

「飼養保管施設設置承認申請書」 3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

動物実験委員会の施設審査小委員会が 2 つの飼養保管施設(動物実験施設本館・南館)および令和 2 年度より学舎地下 3 階旧 RI 施設を改装し、学舎地下 3 階動物実験室として、厳しい基準をもって審査・監督している。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

6. その他(動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果)

特になし。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「大阪市立大学阿倍野地区動物実験委員会議事録」「動物実験実施講習会記録」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

上記規程等を遵守して動物実験委員会を開催している。令和 2 年度は持ち回りにて動物実験委員会を実施、意見を共有した。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」

「動物実験計画承認申請書」「実験計画変更・追加審査結果」

「動物実験計画承認申請書の審査結果報告書」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

上記規程等を遵守して動物実験計画承認申請書を審査し、学長の承認を得るとともに、結果報告書と動物実験自己点検表により動物実験の実施状況を把握確認した。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症により、マウス、ウサギの購入数に減少がみられた。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果

基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。

2021 年度 自己点検・評価報告書

様式 1 - 2

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの改善すべき問題がある。

該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」 「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」

「大阪市立大学(組換え DNA)実験安全管理規程」

「大阪市立大学病原体等安全管理要綱」 「大阪市立大学病原体等安全管理区域運営規則」

「BSL2 実験室安全操作要領」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。) 上記資料の関係箇所遵守に加え、感染実験室や組換え実験エリアなど特殊エリアでは専用の担当者を

配置し、それ以外についても管理の注意点など、飼育実験現場との連携を強めている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果

基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験管理規程」 「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」

「動物実験施設利用状況」

「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」

「動物実験施設作業日報」 「実験動物飼育管理の実際(作業手順)」 「微生物モニタリング記録」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

実験現場を中心に実験動物管理者は、上記資料に定められた内容に従って管理業務を実施している。

飼養保管は、規程や手引きの手順に則り動物種等それぞれに適正に実施されている。また、各階飼育管理エリアで飼育作業担当者を固定しているため、新型コロナウイルス感染症対応にも適していた。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

2021 年度 自己点検・評価報告書

様式 1 - 2

- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「動物実験委員会資料」「動物実験施設飼育室温湿度点検記録」「動物実験施設入退室管理記録」
「物品購入・修理依頼記録」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。) 施設の特徴や利点を損なわず適正な実験環境を維持できるよう、常に管理に努めている。令和 2 年度

は、ロータリー式個別換気ラックの導入(感染実験飼育室、検疫室の一部)、飼育器材等運搬用エレベーター(ダムウェーター)の更新、手術室、処置室の使用についてオンライン予約の導入を行った。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「動物実験実施講習会記録、講習会受講者名簿」「社内教育資料(外注飼育員)」

3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

令和 2 年 4 月より大学の Moodle システムを用いて e-learning での動物実験実施講習受講を開始した。受講状況については、講習内容内で出題されるテスト(4 択問題を 10 問)について全問正解していること、受講時間より確認している。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
 多くの改善すべき問題がある。

2)自己点検の対象とした資料

「大阪市立大学動物実験に関する自己点検・評価報告書」「年度報告(ホームページ)」

3)評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

ホームページで自己点検・評価報告書を含む情報を公開している。

4)改善の方針、達成予定時期

該当せず。

2021年度 自己点検・評価報告書

様式1-2

8.その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

特になし。